平成２８年度　長岡高校スーパーサイエンスハイスクール

名　称	ＳＳＩキャンパスツアー in 長岡技術科学大学
日　時	平成２９年１月２５日(火)
会　場	長岡技術科学大学
対　象	長岡高校１学年普通科（２３９人）
目　的	地元の長岡技術科学大学の先生の講義を受講し，大学の施設設備を見学することを通して，科学や科学技術への興味・関心を高め，また，その意義や有用性の理解を深める。
内　容	〔講義〕 １「雪利用最前線～食品熟成からデータセンターまで～」 上村靖司　教授（機械創造工学専攻） ２「感情を読み取る技術で未来を先取りしてみよう！」 中川匡弘　教授（技術科学イノベーション専攻） ３「生命の第三の鎖、糖鎖による癌の制圧への挑戦」 古川　清　名誉教授（生物機能工学専攻） 〔施設見学〕 メタン高度利用技術研究センター、てくみゅ、音響センター、極限エネルギー密度工学研究センター

開講式
（長岡技術科学大学中出文平副学長）

講義：「感情を読み取る技術で未来を先取りしてみよう！」　中川匡弘　教授

施設見学：極限センター

閉講式
生徒代表による城所俊一高大連携室長への挨拶

<table>
<tr>
<td>アンケート評価</td>
<td>
① 科学技術に対する興味・関心が高まった

<table>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr>
<tr><td>69%</td><td>29%</td><td>1%</td><td>1%</td></tr>
</table>

②科学や科学技術の意義や有用性への理解が深まった

<table>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr>
<tr><td>67%</td><td>30%</td><td>2%</td><td>1%</td></tr>
</table>

③全体を通して　　（満足度）

<table>
<tr><td>満足</td><td>やや満足</td><td>やや不満</td><td>不満</td></tr>
<tr><td>64%</td><td>34%</td><td>1%</td><td>1%</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
<tr>
<td>感想など</td>
<td>
・最先端の研究や技術の話を聞き、また見たり触れたりすることができ、この先の未来への期待やより深　く学びたいという気持ちを持つことができた。また講義等を通じてこのような技術が発展には欠かせな　いことがであることが知れた。

・今まで全く知らなかったような技術や元を知ることができてとても視野が広がった気がした。とても興　味深いものもあり、将来進路を決める際にも役立てたいと思った。

・科学技術には分野が広く幅があった。これからの社会を進歩させるために、未知の世界の研究を進めて　いるのがわかった。現象を細かく調べて立証することの難しさも感じた。

・自分の周りにまだまだ知らないことが多いなと再認識させられた。また、雪室を使った食べ物について　もっと知りたいと感じた。科学は、人々の生活をより良くするために必要だということが伝わった。で　も、内容が私にとって難しいものもあった。

・自分の知らないことがたくさん知ることができ、苦手な科目だったけれども分かりやすい説明や、実際　に目にしたり、触れたりすることで理解ができて楽しかった。もう少し視野を広げて物事を見たいと感　じた。（満足）

・難しい語句、計算式がたくさんあって、自分の知識はまだまだ足りないと思った。もっと知識を身につ　けて、説明を理解できるようになり、納得できるレベルに達したいと思った。　（やや満足）

・このキャンパスツアーを通して一番強く思ったことは、最先端の技術はどんどん進化しているのだとい　うことです。今現在の技術では、脳だけで物事を進めることがあります。つまり非言語コミュニケーシ　ョンという方向に進んでいることはどうなのかということです。人と人とのコミュニケーションも大切　にするべきなのではないかと思いました。それを踏まえて新たな技術の発展を慎重に考えていくべきだ　と思いました。（やや満足）
</td>
</tr>
</table>